

普及活動情勢報告（平成20年12月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

土着天敵温存グループが、温存ハウスを一般開放



12月1・2日、安芸市の土着天敵温存グループが、温存ハウスを一般生産者に開放した。

「グループ員外の農家にも、土着天敵を使ってもらおう！」というグループ員からの提案で、安芸集出荷場管内の2グループ（安芸夏越しグループ、同第2グループ）が実施。集出荷場でチラシを配布し、広く呼び掛けた。

当日参加した12名の農家は、「12月になって寒くなったのに、まだまだタバコカスミカメもクロヒョウタンカスミカメも居る！」と大喜びで、皆が採取用具の吸虫管に土着天敵をいっぱいにして持ち帰って行った。

昨年度は、有志だけで活動して来た取り組みだったが、今年度は研究会活動として位置付けされており、今後ますます地域に土着天敵の利用技術の普及が見込まれる。

安芸室戸ブロック青年農業士が地域交流会



12月18日、20名の参加により安芸・室戸地区の青年農業士が安芸地区で交流会を開催した（10月の室戸地区での開催に続き2回目）。

各地区の青年農業士が互いの圃場における栽培方法等の情報交換を行い交流を深めようとブロック会長が提案し、普及も開催に向けた支援を行った。

今回は土佐鷹の栽培方法とナス、ピーマンにおける土着天敵の活用などについて、現地圃場を巡回しながら情報交換を行った。

参加者からは、「自分と異なる栽培作物でも栽培方法や経営方針は参考になる。」といった意見も出るなど好評で、次回は2月に芸西地区での開催を予定している。

安芸市環境保全型農業推進事業第3回勉強会



平成20年度の第3回勉強会が、12月8日～15日にかけて安芸市の5会場で開催された。（参加延べ人数60名）

今回は、現地検討会主体でハウス内の天敵・病害虫の発生状況についての情報交換を中心とした。各ハウスでの発生状況が異なり、参加した農家も興味を持って、現地を観察していた。

作の始めから11月までの天敵・病害虫の発生経過や農薬散布履歴の記録を提出してもらうとともに、継続して記録を行うように指導した。

第4回勉強会は、1月下旬～2月上旬開催予定。今回提出してもらった記録の中間報告を行う予定である。

北川村連絡会の活動（みんなで意見を出し合い、考えてみました！！）



★できたことは何かな！！
これから何をしたら良いかな？

北川村では、平成 19 年に北川村ユズ振興ビジョン（以下「ビジョン」という。）を立て、村の農業振興を関係機関とともに取り組んでいる。

農業振興センターでは、ビジョンを関係機関が効率的に取り組むためアクションプログラム作りを支援した。この活動は、北川村連絡会（11 月 27 日～12 月 16 日の期間に 4 回開催）で実施し、ビジョンの項目毎に①現在までの評価、②残された課題、③責任部署、④これからのタイムスケジュールについて各自がカードに書き、関係機関の役割・内容等を議論した。この活動を通じて、関係機関が連携して目指すべきビジョン像が十分理解され確認できた。

今後は、ビジョンが実現できるよう関係機関と協力し取り組んでいく。

「篤農家」の技術で収量UPを！～室戸・吉良川ナス部会～



熱心に学ぶ女性部員

12 月 17 日に J A 土佐あき吉良川支所では「厳寒期の栽培管理」をテーマとしたナス部会現地検討会を開催した。

部会員 15 人（10 戸）が参加し、部会内で高収量をあげている篤農家を含む参加者全員のハウスを視察し、情報・意見交換を行った。

懐部分の枝葉の整理が遅れている農家が多い中、基本管理をしっかり行っている篤農家のハウスでは、農家から一同に『きれいに管理している』という声上がり、摘葉や整枝方法をじっくりと学んだ。

視察後の講習会では、農業振興センターと J A 担当から篤農家の耕種概要を説明し、生育ステージ毎の追肥間隔と灌水時間、本葉摘葉のタイミング、着果と葉のバランス等の経過について解説した。

部会では、ピーマン・シシトウから転換した新規栽培者もあり、篤農家の栽培管理を学ぶことで全体の収量UPを目指す。

ナス部会の翌日は、女性部の会！！ ～安芸集出荷場女性部 勉強会～



熱心に質問する参加者に対し、丁寧に答える篤農家。“女性の学びの場”が広がっている。

12 月 18 日、安芸集出荷場女性部を対象とした目慣らし会および本園芸年度 2 回目となる現地検討会・栽培講習会が開催され、14 名のナス生産者が参加した。

現地検討会では、篤農家の圃場と、土佐鷹の栽培圃場を視察。肥培管理や摘葉方法などを、篤農家に熱心に質問する姿が見られた。

また栽培講習会では、農業振興センターが『厳寒期の栽培管理』について説明した。特に、女性も関わることの多い整枝・摘葉技術については、ホワイトボードも用いてじっくりと解説。出されたお茶も飲まずにメモを取る姿が、あちらこちらで見られた。

本園芸年度は、女性部事務局（安芸集出荷場）・農業振興センターともに女性部の活動に力を入れており『ナス部会の翌日は女性部の会』という認識が定着しつつある。今後も『18 t どり』を目指して、定期的に講習会を行う予定である。